



## 2011年 11月 石原社長定例記者会見概要

11月2日午後3時から、石原社長による定例記者会見が、放送センター20階役員大会議室で開かれました。概要は以下のとおりです。

### <ベ이스ターズ関連>

Q:現在の状況は？

A:最終的な詰めの協議をしている。まとめ次第できるだけ早く対応したいと考えている。

Q:DeNA以外の交渉相手は？

A:現在はない。

Q:DeNAを交渉相手とした理由は？

A:ベ이스ターズ、プロ野球界全体への情熱、フランチャイズである横浜に対する愛着、さらに長期保有への強い意志を感じたので。

Q:交渉がまとまった場合、TBSの係わり合い方はどうなるのか？

A:今後も野球界、ベ이스ターズの発展の為に、メディアとしてできることはやっていく。

Q:プロ野球コンテンツの魅力・価値はどう変わったと思うか？

A:オーナー企業となった2002年頃は、視聴率も収益も高かった。現在地上波での視聴率は芳しくないが、クライマックスシリーズや日本シリーズなどについては、視聴者のニーズは高いと思う。地上波でも北海道や福岡、広島、中日など、チームの地元では視聴率も高い。BS・CSでは貴重なコンテンツにかわりないし、全体的にはプロ野球コンテンツの価値は衰えていないと思う。

### <編成>

下期がスタートしたが、日曜劇場『南極大陸』は初回22.2%、『炎の体育会TV』も14.1%と好調にスタートした。昨日の『もてもてナインティナイン』も視聴率は満足いくところまで行かなかったが、今後に期待できる内容だったと思う。全日の情報系の番組が大変好調なので、あわせてGP帯もあげて上位を目指したいと思う。

### <暴力団排除条例について>

民放連としても改めて反社会的勢力に対する基本姿勢を確認したと聞いているが、TBSでは、すでにグループ行動基準で「反社会勢力に対していかなる利益供与も行わない」と明確に定めているが、条例の施行を受け、契約書等にその趣旨をきっちり盛り込むための作業を行っている。それと並行して、現場に周知するため、総務局が中心となって、社員やスタッフ、外部プロダクションに向けたセミナーを10月中に3回開いた。出席者は合計で350名近くになったと聞いている。

## <営業概況>

あさってが決算発表なので、詳細についてはお話できないが、上期のテレビ営業状況は、タイムセールスは前年実績を僅かに上回る着地となった。スポットは前年実績を 5%程度下回る見込み。総収入では 2%程度のマイナスになりそうだ。

下期は、スポットは、第 3 四半期以降も東京地区の投下量が好調に推移しており、TBS も前年を上回る売上を見込んでいるが、ヨーロッパのソブリンリスクやタイの洪水の影響が出ており今後への影響が懸念される状況。

## <事業関連>

11 月 19 日(土)より、全国松竹系で映画「アントキノイノチ」が公開される。この作品は、さだまさしさんの同名小説の映画化で、「遺品整理」というイノチと向き合う仕事を通じ、傷ついた二人の男女の心の再生を描いた感動作です。本年度モントリオール世界映画祭においてイノベーションアワードを受賞、先週開催された東京国際映画祭では特別招待作品として上映され、多くのファンの皆さんから感動したというお褒めの言葉を頂いている。是非ご期待ください。

## <ラジオ関連> TBSR&C 加藤社長

上期は前年比で微減収・微減益、予算に対しては増収・増益で着地する見通し。R&C 単体ではタイム収入・スポット収入、事業収入も前年実績をクリアし上々の成果と受け止めている。下期はタイム・スポットともに不透明な状況にあり、より強い緊張感を持って取り組まなくてはならない。

9月の 60 周年記念イベント「感謝 DE サカス」での義捐金でラジオを 690 台購入し、東北被災 3 県の系列局を通して被災者にお渡しすることになった。10 月新番組はまず内容の安定、リスナーとの信頼関係の構築に全力を尽くしてもらいたい。16 日に発表される初めての聴取率調査結果も参考に現場レベルで議論を行い、番組とパーソナリティの育成に成果が出ることを期待している。プロ野球、クライマックスシリーズはセリーグのファイナルステージを中継。日本シリーズも試合開始時間にかかわらず全試合を中継する。

以上